

( 湧心館高等 ) 学校 平成 2 6 年度学校評価表

<b>1 学校教育目標</b>
(1) 学ぶことの楽しさ、繋がることの喜びを体験させ、充実した学校生活を実現すること。 (2) 進路意識高め、勤労を重んずる態度養い、進路実現を行うこと。 (3) 自他の命を尊び、助け合いや公共心を育て、世のために働く態度養うこと。

<b>2 本年度の重点目標</b>
(1) 豊かな心を育む教育の充実 (2) 確かな学力を育む教育の充実 (3) 進路目標達成を目指す教育の充実

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	三課程(全定通)と学校経営の整合性を図る	他課程との情報交換が継続的に図られているか。より良く改善が進められているか。	教務・進路・生徒指導部の情報の共有化と連携の強化を図る。三課程での研修の整理と充実。	三課程の連絡会を定期的実施し、協力体制を強化する。3課程年間研修計画・申し合わせ事項を作成。	A	3課程の教頭会を定期的開催し、共通理解を図り、研修等も年間を通して計画的に実施した。申し合わせ事項等も確認が進んだ。
	適応指導の充実	学年及び学校全体として具体的な取組が進められているか。	新入生への年間を通じた適応指導の充実 年間の転学・転籍・退学者数30名以内	適応指導の年間計画に沿った取組の実施・点検・改善。適応指導委員会の定期開催と充実。	A	適応指導の年間計画沿って取り組んだ。改善点等についてもその都度善後策を検討し、次年度の年間シラバスも作成した。年間の転学・転籍・退学者数も手が届く状況にある。
	開かれた学校作り	広報活動を効果的に実施しているか。	積極的な情報発信に努め、「地域に開かれた学校作り」90%以上を目指す	湧高便り(学校広報誌)年2回、湧水(学年広報誌)の毎月配布。体験入学や中学校説明会の充実。年3回の中学校訪問の実施と充実。	B	学校や学年の広報誌の配布は例年どおり実施。体験入学の工夫や小・中学校への訪問も充実し、小中学校と協力的な関係が築けつつある。担当者を固定し、直接色々な意見を頂くことで、広報活動をより充実させる貴重な機会となった。
		地域社会に貢献する態度が育っているか	学校周辺及び地域の清掃活動を行う。	学校全体で計画的に取り組む。育友会との連携	B	学校周辺の清掃や地域行事への参加等積極的に行った。行事も充実し来校者も増加傾向。
学力向上	教科指導力の向上	公開授業により授業技術の向上を図る	後期に公開授業週間を設定する	所属する教科だけでなく、他教科の授業参観を行い授業担当者に伝える	B	公開授業により、他教科も含め指導力向上の視野を広めることが出来た。
	指導方法の工夫と改善	わかる、できる授業研究の推進	生徒が授業の中で発表する機会を設け、授業への興味・関心を高める	少人数選択の科目を中心に、ICTを含む発表しやすい道具を使って、生徒自身が調べ、発表をする場面を作る	B	研究授業は通信制が中心となって行うとともに、合評会の中で生徒がわかる授業展開として参考になる事例の意見交換会を行うことができた。

	豊かな心を育てる教育の推進	各教科で「命を大切にすることを営む指導」がなされているか	授業及び学校行事等の場面で、生徒が生きてきた活動ができる	生徒の現状把握のため適応指導の改善に向けた会議により現状把握と改善を行う	A	効果的な行事の内容やタイミングなど、適応指導の改善に向けた会議で本年度と来年に向けた会議を行い検討した。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の推進	望ましい勤労観・職業間の育成	職業講話・職場見学・企業人との接触を通して職業人としての意識を形成する。	ヤングハローワーク・雇用環境整備協会・市雇用対策事業などと協力して生徒に可能な機会を提供する。	B	各種機関との連携行事によるキャリア意識の育成は有効であった。低学年からの自己理解・進路理解の面では取り組みの時期が遅くなった。
			インターンシップを通して望ましい勤労観を得る機会とする。	マナー指導・マナー講座などと事前連絡・研修・礼状書き等が有機的に結びつくよう配慮する		
	進路目標の達成	個に応じた進路指導の推進	進路希望調査・適性検査などを通して進路目標の早期設定を促す。	二者面談・三者面談・進路部面談等を計画的に実施するとともに、各種調査結果などを生徒の自己理解に生かす。	B	進路希望調査等の時期や内容を工夫することで、個々の生徒の進路意識を高めることができた。学校全体の行事組み替えに伴う三者面談の時間確保が課題。
			進路情報の提供と進路別学習機会の充実に努め、進路の幅を広げる。	模試・進路のしおり・進路情報誌・進路ガイドスなどの活用を進める。キャリア別終礼・進路検討会等を定着させる。		B
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒が健全に社会に対応できる生活をしているか。	自主的に健全な整容を心掛けられるよう指導	計画的な整容検査の実施、登校指導のみならず学校生活全体での整容指導の声かけの徹底。	B	整容検査の全体実施初年度で課題も多くあったが計画的に実施でき再検査の数も減ってきた。普段からの整容指導と遅刻・欠課に対する指導に対策が必要である。
	理性的態度と道徳的実践力の育成	社会規範意識の高揚、友愛・連帯の精神を養おうとしているか。	学級や委員会活動・部活動など集団生活の中での責任と人間形成の指導。	委員会活動の全体的な活動の活発化を図り、生徒会と連携して道徳教育の推進や遵守事項の徹底を行う。	B	活動に温度差がある委員会があった。生徒の自主的活動を推進する上で定期的な委員会活動の実施とその定着、特に1年生の理性や道徳心の欠如が感じられるので全体的な道徳教育の推進が必要である。
	自他を尊重し、互いに協力する態度や遵法精神の育成	社会生活の根源は規則を守り融和協力である事を自覚しているか。	非行事例の減少といじめ件数0を目指す	規律を守りながら楽しく生活し、いじめや差別などの防止対策を図る。	B	SNS等を通じた書き込みや画像貼付などが多かった。事後対応は徹底的に実施できたが事前対策として定期的な注意呼びかけが必要である。
	交通安全意識の確立、交通法規の理	交通事故・違反が減少したか。無施錠自	事故違反件数を減少させ、安全運転意識	交通委員会を中心に自主的交通安全教育の確立	B	交通委員を中心に施錠率が昨年より向上した。交通事故が多い現状と

	解と交通マナーの向上	転車が減少したか。	の向上を図る。二重ロック100%。	。二重ロック指導の徹底。		無許可自転車への対策、交通安全教育の自校実施の準備が必要である
人権教育の推進	人権問題についての啓発活動	人権問題の提言が伝えられているか。	講話、広報、掲示等を通しての効果的な啓発。	生徒のみならず、保護者、職員に対して、それぞれに適切な方法、時期での実施。	B	課題を抱える生徒を支えることを軸として、生徒指導、人権、特別支援、適応指導等、各部署から多角的になされた。
	特設の人権教育に関する教育活動	人権教育の内容の構築、創造について。	これまでの積み上げに留意しつつ、アップデートに改訂をすすめ、直近の話題を盛り込んだものにする。	係（推進委員、学年の係）だけではなく、当該学年の職員等が共有しうる展開に努める。	B	係の資料提供と、実施主体（学年部）の積極的で具体的な指導の場面を想定した前準備がなされ、各担任も内容を十分に咀嚼して臨むことができた。
いじめの防止等	いじめ防止基本方針の校内体制の確立	いじめ防止基本方針に対する取組がされているか。	いじめに発展しない意識の高揚に努める	基本講話、いじめ防止教育の実施。スマホのルール作り。	B	いじめ防止とSNS等の正しい利用法について生徒会が全校集会で発表し、生徒会・育友会と連携してスマホのルール作りも行った。
	いじめ防止対策委員会を中心とした連携	学級・学年・各部署・各段階における連携が成されているか。	いじめ防止対策委員会での連携を密にし、情報の共有を行い未然防止を図る。	いじめ問題への対応マニュアルの職員への周知を図り、全職員で共通理解と防止に取り組む。	B	対応マニュアルの周知を行い職員間の共通理解は実施できた。アンケートなどの結果から面談での聞き取りなどを行うなどが必要である。
	望ましい集団生活を保障する学習環境の整備	学習の場としてふさわしい学校環境づくりに努めているか。	落ち着いた環境で学習ができるようにし、生徒の行動の異変を可視化できる環境の整備。	職員間の情報共有を行い生徒の変化や異変に気づける環境を作る。面談の実施や家庭との連絡などを密に行う。	B	職員間の情報の共有や面談週間・アンケート調査・家庭訪問等で生徒の実態を把握するよう保護者との連携も図ってきた。今後も報告・連絡・相談を密に行い生徒の学習環境整備に努める。
教育課程	単位制の特徴を生かした教育課程の検討	自己目標達成のためのカリキュラム編成支援	事前指導を充実させ生徒が納得できる時間割を作成	カリキュラムガイダンス（説明会）の実施及び個人面談による相談を充実	B	説明会としては適切に対応したが、生徒個人の時間割作成について他人任せの傾向があり担任の先生の対応に比重がかかった。
			多様な進路に対応する科目選択の可能性を研究	カリキュラム選択について具体的に選択パターンを作成する	A	生徒の現状から、具体的な時間割作成例があれば担任が指導しやすいという意見から、本校ガイダンス説明書（compass）に時間割例の選択パターン例を掲載することができた。